

学校経営推進費 評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートと学校教育自己診断および本校独自調査による生徒の授業満足度向上 ・外部の学力診断テストにおける生徒の学力レベルの向上、国公立大学と関西大学・同志社大の合格者の増加 ・英検準2級以上の合格者およびTOEIC Bridge140点以上の得点者の増加
計画名	・FCK(Future Center Kanan)チャレンジ

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 幹の太い生徒を育成し、充実した質の高い授業を行う。</p> <p>(2)「わかる授業」から「充実した質の高い授業」をめざし、授業公開・授業評価を通じて、授業改善に取り組む。</p> <p>(3)国公立大20人、関西大・同志社大100人の合格をめざす。</p> <p>2 特色づくりに努め、普通科改革校としての素地を固める。</p> <p>(4)資格取得：実用英語検定を1年生は全員受検とする。2・3年生は全員受験を推奨する。</p>
事業目標	ICT教育の環境整備を進め、ICTを活用することにより、「わかる授業」から「充実した質の高い授業」をめざし、研究授業を各教科で積極的に展開し、生徒の学力の向上に努める。また、実用英語検定を1年生は全員受検とし、2・3年生は全員受験を推奨することで2級・準2級の合格者を激増させる。また昨年度導入したTOEIC Bridgeを引き続き2年生全員に受験させ、140点以上得点できる生徒を激増させることで英語力の向上を図り、希望進路実現につなげる。
整備した 設備・物品	書画カメラ11台、プロジェクター11台（壁掛金具・無線LANユニット・インターフェースボックス・ケーブル含む）、55型液晶ディスプレイ2台（スピーカー・スタンド・ケーブル含む）
取組みの 主担・実施者	教頭・仲内 一雄 首席・吉村 正信
本年度の 取組内容	全教科での使用（4月～）、機器使用に向けた教員研修（4月末）、全学年の講習に活用（6月～）、授業公開と研究協議（6月、11月）、生徒授業アンケート・学校教育自己診断等の分析と情報共有（12月、1月）、教科別活用状況の調査と評価（2月）、次年度に向けた教科別活用方法の決定（3月）
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート：「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の各項目の平均値を3.15以上にする。 ・関西大学・同志社大学合格者120人に、国公立大学合格者を25人に増やす。 ・英検準2級以上の合格者を120人以上にする。 ・TOEIC Bridge140点以上の合格者を35人以上にする。 ・スタディーサポートによる2年生のGTZ（学力）B3をB2に引き上げるとともに、B1以上の人数を55人以上にする。 ・教員のICT機器活用率を100%にする。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の各項目の平均値は27年度第1回3.00 第2回3.02、28年度第1回2.93 第2回2.95、29年度第1回2.98 第2回3.04であった。（△） ・関西大学・同志社大学合格者は、H27年度111人、H28年度79人、H29年度67人、また国公立大学合格者はH27年度12人、H28年度8人、H29年度18人（集計中）となり、目標を少し下回った。（△） ・センター試験出願者はH26年度から増え、国公立、難関大学をめざす生徒が増える傾向を見せている。センター利用での合格者も増え、最後まであきらめずに志望校をめざし続ける生徒が増えている。 ・英検準2級以上の合格者はH27年度2級15人、準2級85人、H28年度2級21人、準2級123人、H29年度2級19名、準2級184名と目標を大きく上回る。（◎） ・スタディーサポートによる2年生のGTZ（学力）は目標通り第1回はB2に引き上がったが、第2回はB3に下がった。（○）B1以上の人数はH27年度14人、H28年度41人、H29年度第1回51人、第2回29人であった。（△） ・教員のICT機器活用率はH28年度92.9%、H29年度88.5%であった。（△）
事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている」と「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の各項目の平均値は目標には達しなかったが、過去の授業アンケート結果に比べると過去最高の結果となっている。徐々にではあるが、確実に授業力が向上していることが読み取れる。今後目標に達することは十分考えられる。 ・関西大学・同志社大学合格者については、本年度私立大学の動向が大きく変わり、競争倍率が軒並み1.1倍となり、過去の制度では合格していた生徒が不合格となるケースが多く見られた。これは全国レベルでの傾向である。今回の結果は目標に達しなかったが、国公立の合格者数が大幅に伸びたことから十分に成果が出たものと考えられる。 ・英検については、成果が検証された。 ・2年生のGTZ（学力）についても目標に達することはできなかったが、生徒の学力が確実に伸びていることがわかる。1年生は2回ともB2で、B1以上の人数は135人であることから、今後成果が出るものと思われる。 ・教員のICT機器活用率はH28年度92.9%、H29年度88.5%となったが、校内での普段の利用率はとても高く、ICTを活用した授業が当たり前のような状況になっている。来年度以降も府下の学校に対して公開授業を年3回程度実施していきたい。